

表面処理後の仕事関数の経時変化：ITO材料

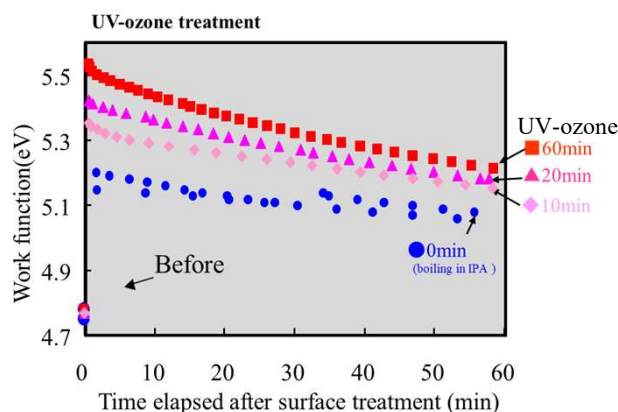


図1 表面処理後経過時間による仕事関数の変化 (当社実験結果)



【開発と品質向上をAC-5で同時にスピーディーに】

ITO (Indium Tin Oxide) 材料は、ガラス基板等に成膜して、有機太陽電池や有機ELなどをはじめとした電子材料の導電膜（電極）として多く用いられています。安定しているので一見すると表面状態は変化していないように見られますが、実は表面処理や洗浄によって大きく変わります。経過時間に伴って変化もしますが、測定に時間がかかると変化の推移を把握するのは困難です。

理研計器の大気中光電子収量分光装置ACシリーズなら、大気中で更に圧倒的なスピードで測定が可能であり、その変化の推移を「見える化」することができます。

大気中光電子収量分光装置

Model : AC-5



ここがポイント！

- 仕事関数を大気中で測定可能
→ 毎回、真空引きを行う手間を省き、真空装置のイニシャル・ランニングコストが不要です。さらに、薄膜や粉体、液体など真空中では測定困難な材料も測定可能です。
- 1 サンプルの測定時間が約 5 分と短時間
→ より多くのサンプルを短時間で測定可能。スピーディーな開発・品質向上をサポートいたします。

理研計器株式会社

【営業本部】

〒174-8744

東京都板橋区小豆沢2-7-6

TEL: 0570-001939

詳しい内容はお近くの営業所まで

<https://www.rikenkeiki.co.jp/>